

### 小中学校音楽専科教員の兼務発令による相互指導をチームティーチングで行いました。

#### 実践 1

和泉中学校、新泉小学校でTTによる授業を行いました。

##### ●小学校で

発声指導をTTで行いました。

器楽指導で個別指導に入りました。中学校へ向けての心構えの指導をしました。

##### ●中学校で

パート練習の指導を行いました。

合唱コンクールの審査を行いました。



新泉小でチームティーチング

#### 実践 2

和泉中学校の合唱部の練習の様子を見学し、合唱指導について研究をしました。

##### ●発声指導(響きのある声づくり)

##### ●メンタル面での指導(練習に対する意欲)



交流お弁当給食で合唱(和泉中3年)



和泉中でチームティーチング

#### 成果

##### ●小学校では

中学校での学習内容を知ることで、小学校での指導に生かすことができた。中学校の教員が授業にかかわることで、児童も中学校に向けてのめあてができた。

##### ●中学校では

5,6年生の変声期初期の児童の様子を知ることができた。

小学校の授業の授業展開の工夫や、教具の工夫を知ることができた。

#### 課題

音楽科の教員同士での情報交換の時間を多く取り、9年間を通した音楽の学びがさらに連続的になるようにしていきたい。



## 図画工作・美術・技術・家庭科部会

## 実践

### 作品展(新泉小)、和泉フェスタ(和泉小)、文化発表会(和泉中)で作品を通じた交流を行いました。

今年度行われました作品展(新泉小学校)、和泉フェスタ(和泉小学校)、文化発表会(和泉中学校)で互いに作品交流をしました。中学生の作品を小学校で飾ったことで、在校生はもちろん教員、保護者、地域の方からも反応がありました。作品をみた小学生は、「中学校へ行ったらこんなことができるんだ」と中学校進学、そして授業に期待を膨らませている様子

でした。また、中学生が母校にきて自分の作品が飾られていることを知り、照れくさそうにしている場面もみられました。小学校同士の交流としては、自分の作品を相手に説明する「子どもガイド」を両校の中学年で実施しました。最初は緊張している様子でしたが、後半は慣れてきたのか、そのままのグループで他学年の作品と一緒にみて回るなど、いい雰囲気でした。



こどもガイド 新泉小3年⇄和泉小3年



小学生の技術科授業体験

#### 成果

●小中合同研究会による情報交換・共通理解によって3校の指導計画をもとに発達段階における技能習得についての確認ができた。

●中学校授業体験(技術科)によって、刃物などの危険を伴う用具の正しい扱い方について小中での共通理解を図る機会となった。

●小学校図工専科教員が中学校でT2として指導することで、彫刻刀や電動糸鋸機などの用具を使う場面で、丁寧に安全な指導ができるようになった。生徒との関係も築け、気軽に相談をできるようになってきている。

#### 課題

●小学校の題材から中学校の題材へのつながりを考慮し、小学校一中学校のつながりを考えたカリキュラムづくりが必要である。

●基礎的な技能、用具(彫刻刀、カッターナイフ、のこぎり、電動糸鋸機)の使い方は小学校の段階で定着させ、中学校での発展的道具の指導へつなげる。

●小学校(45分×2時間)と中学校(50分×1時間)には違いがあるので、活動に対しての計画性をもたせ、準備や後片付けは、速やかに責任もってできるよう習慣化させていく。



### 中学校教員による小学校での体育朝会・授業など専門的指導を行いました。

●6月7日(月)

和泉中体育科教員による、和泉小6年生へのラジオ体操の指導

●7月8日(木)

体育朝会時、和泉中体育科教員による、新泉小全校児童へのラジオ体操の指導

●6月21日(火)

和泉中体育科教員による、新泉小教員へのプール実技研修

3校で集団行動の動き方の共通理解を図り、2・3学期を通して指導しました。

和泉地区の体力向上を図るため、お互いの学校の新体力測定データを持ち寄り、分析しました。新泉小は、柔軟性は高いが、投力と持久力に課題があります。和泉小は、走力が高いが、投力と柔軟性に課題があります。和泉中は敏捷性には優れていますが、筋力に課題があります。この結果を軸にして、3校で手だてを考え実践しています。



ラジオ体操の指導



小中合同タグラグビー教室



プール実技研修

## 成果

- 中学校の教諭が小学校で授業したことにより、中学校に向けての意欲が高まった。
- 中学校教諭から専門的な泳法の実技研修を受け、小学校教諭は泳法のポイントを的確に指導し、小学校児童の泳力が高まった。

## 課題

中学校と連携をとり、より専門的な体育の知識を小学校教員が身につける必要がある。

# A<sub>BC</sub> 英語部会

### 中学校英語教員が小学校で授業 小学校英語教員が中学校で授業

年間35時間の小学6年生の授業に中学校英語教員が、週4時間の中学1年生の授業に小学校英語教員がT2として授業と一緒に組み立て、実践してきました。中学校では小学校での活動を活かして、All Englishで授業を行ったり、InputやActivityを多く取り入れたりしました。小学校では英文を書き写す等の文字に親しむ活動を取り入れました。

●中学校の夏期講習の実施

小中の教員が中学校で夏期講習やテスト前の補習を行い、学力向上を図りました。

●小中の連携

Lesson Planを和泉小と新泉小で交換し、互いに見合うなどして、足並みをそろえていきました。また、合同の英語研修を行いました。



小学校でチームティーチング



中学校でチームティーチング



新泉小英語集会

## 子どもの感想

- ・習った単語でクイズを作ることができ、嬉しかった。
- ・小学校よりもできるようになった。もう一回発表したい。
- ・好きな映画について発表するとき、習った言葉を使えた。またやってみたい。

## 成果

- 中学校教員が小学校6年間の英語活動の流れを知ることにより、生徒の実態に合わせた授業を組み立てることができるようになった。
- 小学校で積み重ねたことが自信となり、生徒に自己肯定感の高まりが見られた。

## 課題

聞く・話す・読むの力を書く力へ結びつけることが課題である。そのためのActivityの開発、実践が必要である。





## 食育部会

### 実践

## ワイ!芝生の上でお弁当

(新泉・和泉交流お弁当給食)

- ねらい:和泉小学校の芝生の上に新泉小学校、和泉小学校、和泉中学校の児童、生徒が一堂に会して、自分たちが考えたメニューのお弁当を残さないように食べる。  
・5年後に一緒に学校になる児童、生徒が食べることを通して交流を図る。
- 日時:平成22年10月29日(金)給食の時間
- 場所:和泉小学校 芝生の校庭【雨天:和泉中学校、体育館、OS(オープンスペース)】
- グループ:食べるグループは、新泉小学校の縦割り班(9班)をベースにする。  
・和泉小学校は地域班を9つに編成し直し、和泉中学校は全体を9分割する。  
(\*うさぎ、パンダ、コアラ、ラッコ、こぶた、たぬき、きつね、ねこ、きりん)



新泉・和泉交流お弁当給食



新泉・和泉交流お弁当給食

### ●当日までの取組み:

- 7月:食に対する興味関心を育てていくことを共通理解(3校合同研究会)
- 8月:グルーピングの決定、音楽部とのコラボ(合唱曲「手紙」の披露検討)  
お弁当メニューのリクエスト(アンケート)を取ることを決定。  
3校給食委員会児童・生徒の活動内容を検討し、計画を立てる。
- 9月13日(月):和泉中学校にアンケートの集計結果を持ち寄る。  
お弁当のメニュー決定。
- 9月下旬まで:各校でメニューの発表、当日の食べるグルーピングの準備。
- 10月7日(水):前期、給食委員会の委員長、副委員長集合(和泉中学校15:30)  
お弁当のネーミングと当日の役割分担決定。  
「AUB(あつとうてきうまいべんとう) 2010〜感謝・完食・eco弁当〜」
- 10月29日(金):ワイ!芝生の上でお弁当。  
(新泉・和泉交流お弁当給食)

AUB(あつとうてきうまいべんとう)  
〜感謝・完食・eco弁当〜

- ワカメご飯
- ほうれん草とコーンのソテー
- スパイシーポテト
- 鶏の唐揚げ
- 肉じゃが
- 焼き鮭
- ブロッコリー
- お茶
- みかん



### 成果

- 3校の児童生徒が初めて全員集まり、みんなでお弁当を食べることができた。当日の進行も3校で役割分担し、代表児童・生徒が力を合わせて進められた。
- 「自分たちで決めたメニューで、3校が仲良く給食を食べられたということがよかった。」「小学生とコミュニケーションをとることができた。」という児童生徒の感想からも、交流を図るというねらいが達成できた。

### 課題

- 3校児童・生徒の交流を深めるため、活動内容をより工夫していく必要がある。
- 食育部としての課題である日常的な「食への興味・関心」「しっかり食べる」について、より成果を上げるためには、各校でさらに工夫して実践していく必要がある。



## 養護・保健部会

### 実践

## 小中学校の養護教諭が児童・生徒の心と体の健康についてともに考え指導しました。

小学校の保健学習では3年「体のせいけつ」4年「育ちゆく体」5年「けがの防止」5・6年「薬物乱用防止教室」を実践し、保健指導として1・2年・特別支援学級「歯を大切にしよう」「かぜのよぼう」「よい姿勢」「バナナうんちをしよう」の指導を行いました。自分の体や生活を振り返り、よりよく生活しようとする意欲が見られるようになってきています。



新泉小・保健指導の様子

また、月1回の保健指導日には、児童の健康実態に即したテーマで「アルコールの害」や「目の健康」「むし歯予防」などの指導を行いました。  
中学校では、生徒保健委員会が「インフルエンザ予防について」昼休みや放課後の時間を活用し、分担した仕事をすすめ、全校朝会で発表を行いました。



和泉中・保健委員会の発表

### 成果

- 指導の積み重ねをすることで、健康な生活への知識や関心が高まった。
- 生徒が発表することで、予防への関心がより高まり、実践しようとする態度が見られた。
- 指導を受けて、「やってみたい。」「もっと体のことを知りたい。」という子どもの声が聞かれるようになった。

### 課題

- 指導で得た知識を日常生活の中で実践できるようにしていく。
- 繰り返し啓発していくことで、実践する態度を身につけさせる必要がある。
- 健康生活の定着には、家庭の協力が欠かせないため、今後も家庭との連携を深めていく。

# 新泉・和泉地区小中一貫教育のこれから

杉並区立新泉小学校 校長  
鶴巻 景子

杉並区立和泉小学校 校長  
相馬 季子

杉並区立和泉中学校 校長  
由井 良昌

平成22年度の新泉・和泉地区小中一貫教育においては、小中一貫教育の日(交流お弁当給食)、部活動交流、タグラグビー教室等を実施し、児童・生徒の交流を図りました。また、教員同士では各教科・領域の指導の連携・交流、3校合同研究会、小学校同士の研究会や研修会を積み重ねてきました。

その結果、小中の教員が合同の研修会や研究授業で顔合わせ、一緒に授業や行事を創造していく中で、「この和泉の地域で生きる児童・生徒のために、自分たち教員が今何ができるか」を真剣に考えるようになってきました。また、中学校では小学校のきめ細やかさを取り入れた授業が、小学校では中学校の専門性やスピードを意識した授業が行われるようになってきました。そして、教員は9年間の学びを

連続的に捉え、児童・生徒がどのようなことを学んで現在に至り、これから何を学んでいくかを考えて指導計画を組み立てるようになってきました。そうした授業改善によって、授業の中身や教員の意識に大きな変化が見られています。

教育とは、知育・徳育・体育の調和のとれた人間形成を総合的に行うことであり、これらの三者はいつの時代でも変わることはない人間として身につけるべき内容です。学校、家庭、地域社会がそれぞれに教育の役割があります。様々な教育は、子どもの成長に応じて系統的に進められ、身につけたことを次ぎの学びに継承し、より質の高いものを目指していきます。学びは連続して行われるものです。小中一貫教育は義務教育9年間を通して一貫した方針に基づいて人間形成を図り、豊かな人生を送る基盤を作ります。

【いいまちはいい学校を育てる～学校づくりはまちづくり～】

27年度開校予定の施設一体型小中一貫教育校があと4年後になりました。これからも、3つの学校・家庭・地域社会が連携・協力し、質の高い教育を行う「地域の学校」を創っていきます。

## 第2回 新泉小・和泉小・和泉中保護者への意識調査結果

保護者の皆様に向けて、6月の意識調査に引き続き12月にも同じ項目で2回目の意識調査を行いました。今回もご協力および貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

### ① 新泉・和泉小中一貫教育設置計画について理解している。

全体の肯定率が66%から80%に増えました。来年度から校舎等の基本設計に入り、平成25年度から工事期間に入ります。新泉・和泉地区の小中一貫教育校の設置計画の詳細については、杉並区教育委員会のホームページをご覧ください。

### ② 施設一体型小中一貫教育校に期待を持っている。

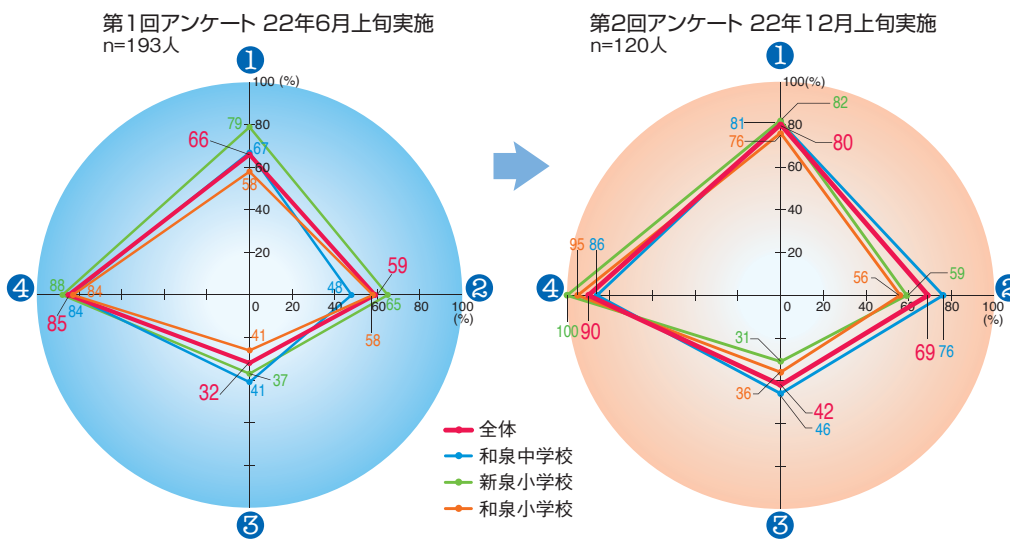
全体の肯定率が59%から69%に増えました。校舎改築については、プロポーザル(提案)方式をとることが決まり、建築家や有識者の英知を注いだ施設一体型の小中一貫教育校の青写真が次第に見えてきます。今後も小中一貫教育校設置協議会ニュースや教育委員会のホームページをご覧ください。

### ③ 小中一貫教育のよさ(学力向上・豊かな人間性・進路保障)が実感できている。

全体の肯定率が32%から42%に増えました。6年生への意識調査では授業体験や部活動体験、小中の交流を重ねることで中学校に対する期待が高まり、不安が少しずつ解消される結果になりました。小中一貫教育のメリットは、今後も様々なデータを取りながら、ニュースレター等で発信していきます。

### ④ 小中一貫教育の情報は、学校公開や印刷物、ホームページを通して、ご家庭に届いている。

全体の肯定率が85%から90%に増えました。今後も各校の学校だよりやホームページ、ニュースレター、3校共通のホームページ等で情報をお伝えしていきます。また、3月9日(水)に1年間の小中一貫教育についての取り組みを3校の教員が報告します。



■4段階評価 4:そう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:そう思わない ※評価できない、わからないときは「わからない」を選択

## お知らせ

### ■小中一貫教育報告会の開催について

日時: 3月9日(水)午後2時から4時  
会場: 和泉中学校視聴覚室  
内容: 10部会からの報告  
工藤文三 先生(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長)の  
講評および講演会

### ■新しい学校の公開プレゼンテーション開催について

日時: 3月13日(日)午後1時開始  
会場: 和泉中学校  
内容: 公開プレゼンテーション  
設計事業者の決定



新泉・和泉  
小中一貫教育Ⅱ

### 杉並区立 和泉中学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-14  
tel.03-3322-7671 fax.03-3322-3574  
url.http://www.suginami-school.ed.jp/izumichu/

### 杉並区立 新泉小学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉1-44-26  
tel.03-3322-4251 fax.03-3322-2761  
url.http://www.suginami-school.ed.jp/shinsenshou/

### 杉並区立 和泉小学校

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-21  
tel.03-3322-4254 fax.03-3322-8336  
url.http://izel.sakura.ne.jp/izumi/

小中一貫教育ニュースホームページ

<http://www.suginami-school.ed.jp/shinsen-izumi/>